

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

I N P E X、石油資源開発、出光興産、E N E O S ホールディングス、
コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

岩谷産業、日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、
中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、
電源開発、レノバ、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 15 名（所属先 14 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、自主的情報開示の項目内容などを見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 66.3 点（昨年度 67.7 点）、総合評価点の標準偏差は 9.0 点（昨年度 7.3 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 76.6 点（昨年度 75.1 点）、電力・ガス部門（16 社）が 63.1 点（昨年度 65.3 点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油 79.8 点（昨年度 77.6 点）、鉱業 72.0 点（昨年度 71.4 点）、ガス 68.0 点（昨年度同点）、電力 60.9 点（昨年度 64.1 点）となった。昨年度に比べ、電力の総合評価平均点が大きく下がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 66%（昨年度 68%）、説明会等が 66%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが 90%（昨年度同率）、ESG 関連が 64%（昨年度 65%）、自主的情報開示が 61%（昨年度 66%）となり、自主的情報開示の平均得点率が大きく下がった。

- ④ 評価項目（全 12 項目）について見ると、次のとおり、**フェア・ディスクロージャー**の 2 項目は平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

(a) 「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 92%〔昨年度 93%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：60%台 1 社・80%台 1 社・90%台 19 社）

(b) 「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか」（平均得点率 86%〔昨年度 87%〕）（得点率：70%台 2 社・80%台 11 社・90%台 7 社・100%1 社）

- ⑤ 一方、次の、**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目は、平均得点率が 50%台となり、全項目の中で最も低かった。なお、本年度において項目内容を見直している。コスモエネルギーホールディングス、東京瓦斯など一部の評価対象企業が高水準の得点率となったが、全体としては依然低水準にとどまっており、下位評価企業には改善努力を強く求めたい。

- ・ 「複数の社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 52%〔昨年度 55%〕）（得点率：20%台以下 6 社・30%台 1 社・40%台 2 社・50%台 3 社・60%台 3 社・70%台 4 社・90%台 2 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 コスモエネルギーホールディングス（ディスクロージャー優良企業（2 回目）、

総合評価点 83.2 点〔昨年度比+4.7 点〕、昨年度第 2 位〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）85%）、**ESG 関連**（81%）が第 1 位、**説明会等**が同得点第 1 位（84%）、**自主的情報開示**が第 3 位（72%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（94%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、この結果、8 年振りの第 1 位受賞となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、3 項目全てで最も高い評価となった。特に「社外取締役との対話」は、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これらに関連して、経営トップの説明会への積極的な参加を評価する声や、経営陣とミーティングの場で率直な意見交換ができ有益であるとの声が寄せられ、**IR 担当者**と有意義なディスカッションができるとの声あった。また、社外取締役との対話機会の設定を評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第 1 位（昨年度第 3 位）となり、「説明資料等における開示」も高く評価され、第 2 位（昨年度第 5 位）となった。これらの結果、この分野において同得点第 1 位（昨年度同得点第 3 位）となった。これらに関連して、説明資料の内容が豊富であり、また取材時の補足説明においても定量的な情報が多く有益であるとの声が寄せられたほか、**IR 部門**と**経営陣**の距離が近い点を評価する声あった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 1 位）および「多様な情報提供」（同得点第 3 位）が、いずれも 90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において同得点第 3 位（昨年度同得点第 11 位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が最も高い評価となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」（第 2 位）も高い評価となった。これらに関連して、株主還元方針がわかりやすいことを評価する声があった。「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」は同得点第 3 位に、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」は第 4 位となった。これらの結果、昨年度に続き、この分野において第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は第 3 位（昨年度同得点第 7 位）となった。これに関連して、見学会や事業説明会は有益であったとの声のほか、特に製油所効率化の取組み現場見学会は製油所のイメージを変えるもので有益な機会であったとの声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 出光興産（総合評価点 78.2 点〔昨年度比－0.4 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第2位（78%）、説明会等が第3位（80%）、ESG 関連（76%）、自主的情報開示（70%）が第4位、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位（92%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第3位（昨年度同得点第3位）となり、「社外取締役との対話」も同得点第3位（昨年度同得点第4位）となった。「経営陣の IR 姿勢」（第4位）は、昨年度に比べ得点率が下がった。これらに関連して、資本効率改善に向けた情報発信が少なくなった印象との声があった。一方で、マネジメントとの対話の機会が多いことや、経営トップが投資家の目線を踏まえて情報発信をしていることを評価する声が寄せられた。また、IR 部門も高いレベルであるとの声もあった。なお、社外取締役が参加する ESG トップセミナーの開催を評価しつつ、より参加者を増やす努力を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」が共に第3位となり、いずれの項目も昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、説明資料の記載内容は充実しており、取材時の補足説明も的確であるとの声があったほか、増減益を理解するための前提の記載が詳細であるとの声も寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第1位）が 90%以上の得点率となった。「多様な情報提供」（同得点第9位）も 85%以上の得点率であった。
- ⑤ ESG 関連においては、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」および「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が共に同得点第2位となり、「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」も同得点第3位となり、いずれの項目も昨年度に比べ得点率が改善した。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」は第7位（昨年度第3位）となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は第4位（昨年度同得点第4位）となった。これに関連して、見学会や各種事業説明会の開催を評価する声があった。

第3位 ENEOS ホールディングス（総合評価点 77.8 点〔昨年度比＋2.1 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、ESG 関連が第2位（79%）、経営陣の IR 姿勢等が第3位（77%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（94%）、説明会等が同得点第4位（78%）、自主的情報開示が同得点第6位（66%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く4分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第3位（昨年度同得点第5位）となり、「IR 部門の機能」も同得点第4位（昨年度第8位）となった。これらに関連して、新経営体制の下で対話の機会が増えてきており、経営方針は明確であるとの声や、経営トップの中期経営計画に関するプレゼンテーションを評価する声が寄せられた。また、IR 活動が組織として十分に行われている印象との声もあった。「社外取締役との対話」は第8位（昨年度第12位）となり、昨年度に比べ得点率が改善した。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第4位（昨年度同得点第5位）に、「説明資料等における開示」が同得点第5位（昨年度第6位）となり、共に昨年度に比べて得点率が改善した。これらに関連して、説明資料の記載内容は充実しており、取材時の補足説明も定量的な情報が多く有益であるとの声が寄せられたほか、増減益を理解するための前提の記載が詳細であるとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第1位）および「多様な情報提供」（同得点第3位）が、いずれも 90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において同得点第3位（昨年度同得点第19位）となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」および「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」が共に最も高い評価となり、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も同得点第2位となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」は第4位（昨年度同）であった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は同得点第 6 位（昨年度同得点第 7 位）となった。これに関連して、見学会や事業部単位の戦略説明会は有益な機会であったとの声が寄せられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **東京瓦斯**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 72.4 点〔昨年度比+10.4 点、一昨年度比+8.8 点〕、第 7 位〔昨年度第 16 位、一昨年度第 9 位〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 4 位（74%）、説明会等（68%）、ESG 関連（73%）が第 7 位、自主的情報開示が第 8 位（64%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 10 位（90%）となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等、説明会等および ESG 関連の 3 分野において得点率が大きく改善した結果、総合評価順位において 9 ランクアップとなった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社外取締役との対話」が第 2 位（昨年度第 3 位）となり、90%以上の得点率であった。「経営陣の IR 姿勢」も第 6 位となり、得点率は昨年度に比べ 15 ポイント以上改善した。「IR 部門の機能」も第 13 位（昨年度第 20 位）となり、これらの結果、この分野において同得点第 4 位（昨年度第 15 位）となった。これらに関連して、株式市場への情報発信が急速に改善しているとの声や、ROE を重視する経営方針を明示した点を評価する声が寄せられた。また、社外取締役スモールミーティングを高く評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」が同得点第 8 位（昨年度第 13 位）に、「説明会、インタビューにおける開示」が第 9 位（昨年度第 19 位）となり、これらの結果、この分野において第 7 位（昨年度第 16 位）となった。これらに関連して、説明資料の開示内容がレベルアップしている印象との声のほか、米国上流事業を中心に情報開示が充実してきた点を評価する声もあった。
- ④ ESG 関連においては、「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」が同得点第 5 位（昨年度同得点第 15 位）となり、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」が第 7 位（昨年度同得点第 16 位）となった。これらに関連して、削減貢献量を含めて自主的な開示に積極的であるとの声が寄せられた。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第 6 位（昨年度第 19 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これに関連して、利益と還元の両面から ROE 目標の達成を説明するように改善したことを評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

(参考) 部門別の第 1 位企業

【石油・鉱業部門】

コスモエネルギーホールディングス（総合評価点 83.2 点、全体第 1 位）

【電力・ガス部門】

日本瓦斯（総合評価点 76.7 点、全体第 4 位）

以 上

2025年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (エネルギー:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目4 (配点 35点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5021 コスモエネルギーホールディングス	83.2	29.9	1	16.8	1	4.7	3	28.2	1	3.6	3	2
2	5019 出光興産	78.2	27.4	2	16.0	3	4.6	6	26.7	4	3.5	4	1
3	5020 ENEOSホールディングス	77.8	26.8	3	15.5	4	4.7	3	27.5	2	3.3	6	4
4	8174 日本瓦斯	76.7	24.8	8	16.8	1	4.8	2	26.2	5	4.1	1	3
5	1605 INPEX	76.5	25.4	6	15.5	4	4.7	3	27.1	3	3.8	2	5
6	9532 大阪瓦斯	72.8	25.8	4	13.4	8	4.5	10	25.7	6	3.4	5	6
7	9531 東京瓦斯	72.4	25.8	4	13.5	7	4.5	10	25.4	7	3.2	8	16
8	1662 石油資源開発	67.4	21.9	14	15.3	6	4.5	10	22.6	10	3.1	9	10
9	9508 九州電力	67.0	25.2	7	12.6	12	4.6	6	21.7	11	2.9	12	7
10	9509 北海道電力	66.3	22.6	13	12.7	11	4.5	10	23.4	8	3.1	9	12
11	9513 電源開発	65.6	23.7	10	13.4	8	4.5	10	21.1	14	2.9	12	11
12	9507 四国電力	65.4	24.4	9	13.3	10	4.4	15	20.8	15	2.5	20	9
13	9506 東北電力	64.0	23.0	11	12.6	12	4.4	15	21.2	13	2.8	14	14
14	9502 中部電力	63.1	22.8	12	11.6	17	4.6	6	21.3	12	2.8	14	19
15	9533 東邦瓦斯	62.8	19.4	18	12.1	15	4.6	6	23.4	8	3.3	6	18
16	9504 中国電力	59.2	21.9	14	11.4	19	4.4	15	18.9	18	2.6	17	13
17	9505 北陸電力	58.6	19.9	16	11.5	18	4.3	18	20.2	16	2.7	16	17
18	9519 レノバ	58.3	19.0	19	12.5	14	4.9	1	18.8	19	3.1	9	20
19	8088 岩谷産業	55.2	17.8	20	10.7	20	4.1	20	20.2	16	2.4	21	15
20	9503 関西電力	52.2	17.1	21	12.0	16	4.2	19	16.3	20	2.6	17	8
21	9501 東京電力ホールディングス	50.4	19.7	17	8.6	21	3.6	21	15.9	21	2.6	17	21
	評価対象企業評価平均点	66.33	23.06		13.23		4.48		22.50		3.06		

2025年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8174 日本瓦斯	76.7	24.8	4	16.8	1	4.8	2	26.2	1	4.1	1	1
2	9532 大阪瓦斯	72.8	25.8	1	13.4	3	4.5	6	25.7	2	3.4	2	2
3	9531 東京瓦斯	72.4	25.8	1	13.5	2	4.5	6	25.4	3	3.2	4	11
4	9508 九州電力	67.0	25.2	3	12.6	7	4.6	3	21.7	6	2.9	7	3
5	9509 北海道電力	66.3	22.6	9	12.7	6	4.5	6	23.4	4	3.1	5	7
6	9513 電源開発	65.6	23.7	6	13.4	3	4.5	6	21.1	9	2.9	7	6
7	9507 四国電力	65.4	24.4	5	13.3	5	4.4	10	20.8	10	2.5	15	5
8	9506 東北電力	64.0	23.0	7	12.6	7	4.4	10	21.2	8	2.8	9	9
9	9502 中部電力	63.1	22.8	8	11.6	12	4.6	3	21.3	7	2.8	9	14
10	9533 東邦瓦斯	62.8	19.4	13	12.1	10	4.6	3	23.4	4	3.3	3	13
11	9504 中国電力	59.2	21.9	10	11.4	14	4.4	10	18.9	13	2.6	12	8
12	9505 北陸電力	58.6	19.9	11	11.5	13	4.3	13	20.2	11	2.7	11	12
13	9519 レノバ	58.3	19.0	14	12.5	9	4.9	1	18.8	14	3.1	5	15
14	8088 岩谷産業	55.2	17.8	15	10.7	15	4.1	15	20.2	11	2.4	16	10
15	9503 関西電力	52.2	17.1	16	12.0	11	4.2	14	16.3	15	2.6	12	4
16	9501 東京電力ホールディングス	50.4	19.7	12	8.6	16	3.6	16	15.9	16	2.6	12	16
	評価対象企業評価平均点	63.13	22.06		12.42		4.43		21.28		2.94		

2025年度 ディスクロージャー評価比較総括表（石油・鉱業部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価項目3 (配点 35点)	順位	評価項目2 (配点 20点)	評価点	順位	評価項目2 (配点 5点)	評価点	順位	評価項目4 (配点 35点)	評価点	
1	5021 コスモエネルギーホールディングス	83.2	29.9	1	16.8	1	4.7	1	28.2	1	3.6	2	2
2	5019 出光興産	78.2	27.4	2	16.0	2	4.6	4	26.7	4	3.5	3	1
3	5020 ENEOSホールディングス	77.8	26.8	3	15.5	3	4.7	1	27.5	2	3.3	4	3
4	1605 INPEX	76.5	25.4	4	15.5	3	4.7	1	27.1	3	3.8	1	4
5	1662 石油資源開発	67.4	21.9	5	15.3	5	4.5	5	22.6	5	3.1	5	5
	評価対象企業評価平均点	76.62	26.28		15.82		4.64		26.42		3.46		

2025年度の具体的評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)社外取締役との対話	
・複数の社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、利益率または利幅、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
(2)多様な情報提供	
・リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
①非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	8
②非財務情報（人的資本等の社会分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	7
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等。	5

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	神近 広二	SMBC 日興証券
	西川 周作	大和証券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	野村證券

評価実施アナリスト（15名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
今泉 達矢	アセットマネジメント One	富田 展昭	極東証券経済研究所
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	西川 周作	大和証券
荻野 零児	モルガン・スタンレー MUFG 証券	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
神近 広二	SMBC 日興証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	山崎 慎一	野村證券
佐々木 聡	SOMPO アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。